



## JR九州 クルーズトレイン “ななつ星in九州”

**N**  
1:150  
G=9.0

塗装済完成品 36,500円 (税別)  
カトー製品  
03-3954-2171  
<http://www.katomodels.com/>

カトーからJR九州の“ななつ星”が待望の登場。

JR九州では移動手段としての従来の枠にとらわれない、周遊型観光列車の計画を長年温めていた。そして同社のデザイン顧問である水戸岡鋭治氏がデザインし、2013年に77系客車“ななつ星in九州”



が登場した。7輻編成1本のみの存在で、ダイニングカーとラウンジカーが1輻ずつに寝台車が5輻という内容。寝台車は全室個室で、スイートとデラックススイートのみ。編成全体の定員は僅か28名という超豪華列車である。

ダイニングカーは編成端に連結され、大きな展望窓から流れゆく景色を堪能できるのが特徴である。牽引機としてJR貨物のDF200形をベースに特別な装飾を施した7000番代が登場。塗装はロイヤルワインレッドをベースに車体各所に金色のエンブレムやラインが散りばめられている。

団体ツアー列車の形式を取り、1泊2日コース、3泊4日コースともに今なお根強い人気を誇る。そしてクルーズトレインという発想は、後に登場したJR東日本の“四季島”、JR西日本の“瑞風”にも強い影響を与えている。

製品は専用機関車のDF200-7000と77系客車の8輻フル編成セット。77系客車は完全新規製作である。やはりまず目につくのが車体のロイヤルワインレッドだが、高級感のある独特の雰囲気を実現するため、カトーがこれまで培ったノウハウを惜しみなく投入。実車同様、鏡のような艶と高級感ある

メタリック塗装を見事に表現している。

車体各所に輝く“ななつ星”のエンブレムは、車体側にモールドを行い、その上から金色で印刷を施すことで立体感を再現。一見すると簡単そうだが、印刷がずれると台無しになってしまうだけに高い技術力が要求される部分である。

豪華な内装は、個室の壁面や内装が写車によって異なる点を室内パーツの成形色を変えて再現。なお、個室のドアは乗客同士が互いに部屋を往来することもあることから開放状態とされ、室内灯を取付けた際の効果も考慮している。

最後尾は大きな展望窓の左右にテールライトが多数配置されたユニークなデザインだが、模型では灯火類への導光が極めて難しい。製品ではプリズムの配置を工夫し、LED1灯で均等な明るさを実現。推進運転時には白色のヘッドライト点灯に切り替わるのは言うまでもない。

室内灯はオプションであるが、取り付けると実車の豪華さが一層引き立つ。牽引機のDF200は既発売のJR貨物機のカラーバリエーションだが、前面や側面のアクの強い装飾をしっかり再現。最新の設計である客車と連結しても違和感なく、ベース

製品の水準が高い証である。

日本を代表する豪華列車を高級感たっぷりに再現した注目アイテム。実車は九州島内専用だが、模型では先に発売された“四季島”と夢の競演を楽しむのも良いだろう。(山本)



寝台車の内装は各号車で成型色を変えて再現



食堂車のテーブルランプが点灯。複雑に配置された妻面の灯火類も実感的に点灯する



## 軽便電気機関車 EB02

**On30**  
1:48

キット 8,000円 (税別)  
ペアーハンズ製品  
0276-46-1462  
<http://homepage3.nifty.com/PAIRHANDS/>

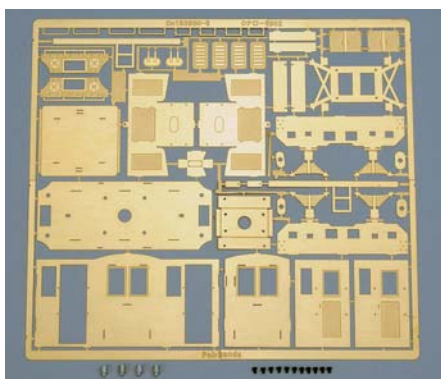
ペアーハンズのOナローキット。同社では軽便・森林鉄道に実在した車輻からフリーランスまで軽妙なアレンジで模型化してファンを喜ばせているが、今回発売されたのは凸型電機である。

組立サンプルでお分かりのように、上田丸子のEB4111をモチーフとして馬面のショーティーとしたようなデザイン。GEや雨宮製に実在しそうな武骨な形態が魅力的である。

製品は真鍮エッチングを主体としたキット。両端ボンネットを組立ててキャブと接合、下回りと組み合わせる一般的な構造であり、屋根板やボンネット端など多少の折曲げ加工は必要だが、ホゾ組で各部品の取付位置が気持ち良く決まるのが親切である。屋根上のパンタ台は上板と前後のタス

キを一体で折り曲げ、ランボードをハンダ付けする簡素なもの。パンタグラフは16番用のものを別途調達するが、作例のようにビュゲルを載せても面白いだろう。

その他、カプラーと動力、ヘッドライトなどが別売。動力はアルモデル製HO-31・車輪径11.5mmが指定されている。適度なドレスアップや軽加工で自分好みのスタイルに仕立ててみたい。(平野)





## 国鉄 ED71形

**No.16**  
1:80  
G=16.5  
塗装済完成品 各275,000円(税別)  
天賞堂製品  
03-3562-0025  
<http://www.tenshodo.co.jp>

### 製品一覧 (全て税別)

- 12112 1次型 “はくつる” 牽引時代
- 12113 1次型 中期タイプ (シリコン整流器仕様)
- 12114 2次型 “はくつる” 牽引時代
- 12115 2次型 中期タイプ (シリコン整流器仕様)

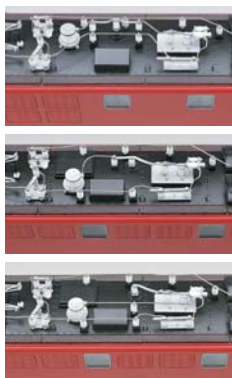
天賞堂からED71が真鍮製HGモデルで新登場。

ED71は東北本線黒磯以北の交流電化にあわせて1959年に試作車が登場。北陸本線のED70をベースに設計されたが、東日本の交流50Hz対応や大幅な出力増強が図られ、新製時から電気暖房装置も搭載している。1~3号機はそれぞれ異なるメーカーに発注され、違う方式の変圧器・整流器を比較検討した結果、日立製1号機のエキサイトロン整流器を採用した量産機が1960年から製造された。

1960・61年に製造された4~44号機は1次形と呼ばれ、側面エアフィルターは田の字型配置、クイ

ル式駆動方式を採用。1962・63年に登場した2次形(45~55号機)では側面のエアフィルターが採光窓をはずし一列配置となり、吊掛駆動に変更。台車も設計変更され軸距が少し大きくなっている。

その後、試作機と1次形は駆動方式をリンク式に改造し、動輪はスポーク輪心からボックス輪心へと変化した。また1970年以降、一部にシリコン整流器への改造工が行われている。晩年はED75形の増備により徐々に活躍の場を狭められ、1982年に全機が運用を退いている。



各仕様で異なる高圧機器配置や形状を作り分けしている。



製品は真鍮製の塗装済完成品。多くの国鉄交流機を製品化してきた同社だけに手慣れた仕上がりで、緩く傾斜のついた貫通型前面や側面のエアフィルター、賑やかな屋上の高圧機器など重厚感たっぷりに再現されている。前面や機械室の固定窓はプラ成型品の填込みでHゴム枠を表現。キャブインテリアも国鉄電機らしくハンドル類が賑やかに並んでいる。

動力は床上中央に置いたフライホイール付きコパルモーターからユニバーサルジョイントで各台車を駆動。TAギヤにより台車側面からのシルエットが楽しめる。前照灯・尾灯に加えて電暖表示灯、乗務員室照明もLEDで点灯し、それぞれ床下スイッチでON/OFFが可能である。

寝台特急“はくつる”などを牽引した全盛時をプロトタイプに、1次形・2次形それぞれ2種類の計4バージョンを発売。1次形は動輪がスポーク/ボックスと作り分けられているほか、それぞれ屋上の整流器やジャンパ栓の配置などを変えている。ナンバーは1次形が22・28・37・40・44、2次形が45・46・47・48の選択式。そのほか製造銘板、検査標記インレタ、ヘッドマーク座が付属する。高度成長期の東北筋を再現するには欠かせない立役者。単機での旅客牽引、重連での貨物牽引と様々な列車の先頭に立たせたい。(平野)



## JR西日本 キハ47 2000番代 砂かけばばあ・こなきじい列車セット

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品 12,700円(税別)  
トミックス製品  
03-3695-3161  
<http://www.tomytec.co.jp/>

トミックスのキハ40系『ゲゲゲの鬼太郎』ラッピング車。

国鉄が製造した一般形気動車キハ40系のうち、キハ47は出入デッキ仕切りを持たない両開き二扉の片運転台車である。0番代は暖地向けでコイルば

ね台車を履く。JR西日本に継承されたキハ40系は冷房化・エンジン交換や体質改善工が行われ、今も多くが残るが、一部はラッシュ時向けにロングシート化改造され、キハ47-0では2001-2023へ改造された。地域色が数多くあったが、2009年から朱色5号単色への統一が進められている。

境港は漫画家水木しげるの出身地であり、境港と米子を結ぶ境線には代表作『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターたちのラッピングを行ったキハ40系が走っている。2018年には新デザインへとリニューアルされ、その第



1弾として砂かけばばあ列車・こなきじい列車の出発式が1月に行われた。

製品は2018年12月号で紹介した鬼太郎列車・ねこ娘列車に続くもので、昨年1月に登場したキハ47-2019砂かけばばあ列車とキハ47-2004こなきじい列車の2輛セット。車体全体に描かれた妖怪のラッピングはもちろん、体質改善車の車体や更新された床下などJR西日本車の特徴を反映している。

TNカブラーが標準装備で、動力は砂かけばばあに搭載。信号炎管・列車無線アンテナ・タイフォン・幌枠・トイレタンク・台車排障器はユーザー取付である。前面幕は“境港”が取付済で、交換用に“米子”“臨時”が付属している。前照灯・尾灯・前面幕は常点灯対応でON-OFFスイッチ付き。室内照明ユニットがオプションで取付可能である。

先に発売された鬼太郎列車・ねこ娘列車セットのブックケースに収納できる。残るねずみ男列車と目玉おやじ列車も製品化予定であり、あわせて揃えたい。(山崎)

## 国鉄 C10/C11 200 お召し

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品  
トラムウェイ製品  
03-3256-3522  
<http://www.mmjp.or.jp/tramway>

### 製品一覧 (全て税別)

- C11 200 お召しタイプB .....18,900円
- C10 .....15,400円

トラムウェイのNゲージC11にお召し装飾の200号機が追加。あわせてC10も発売となった。

C11 200は数多いC11の中でも水タンクや炭庫が大型化され戦時設計に移行するまでの、3次型と呼ばれるもっとも“C11らしい”グループの一員。1940年に川崎車輻で製造され、一貫して九州で使われた機関車である。1973年4月、天皇后両陛下の宮崎県植樹祭に臨席のための行幸啓に際して、日南線でC56 92とペアを組んで御召列車を牽引した経歴を持つ。廃車後は遠く兵庫県たつの市で保存され、現存している。

製品は2018年11月号で紹介したもののバリエーションで、車体はダイキャスト・プラのハイブリッド成型によるもの。200号機は時代毎に細部の変化が見られるが、デフレクタにはバイパス弁点検窓が開き、炭庫背面にはキャブへの空気取入口や埋込式に改造された後部標識燈を装備するなど、晩年の九州らしい姿を反映し



ている。ランボード側面の白線、各部の金色装飾も彩色済で、前部デッキには日章旗が取付済。ナンバープレート、菊の御紋、日章旗を外した際のつかみ棒、前部の交換用アーノルドカブラーが付属している。

C10は老朽化した古典機を置替えて区間・近郊列車の経済的運用やスピードアップを図るため、1930年に登場した。全長や動輪径など主要寸法は翌々年に登場したC11と同様だが、デフレクタは装備せず、第三動輪や従台車の位置、炭庫の形状などに細かな違いが見られる。登場時はボイラー上

部の両側面に重見式給水温め器を取付けていたが、1941年以降に撤去されている。

製品では給水温め器撤去後をプロトタイプとして、C11との差を再現。サイドタンクやキャブ屋根など細かいリベット表現が見どころで、裾の低いキャブ側面やデフレクタのないスッキリした姿が楽しめる。下回りのC11と同様、従台車にも集電板を装備しリード線により接触不良を防いだ良心的な構造。実車さながらに軽快な走行性能を発揮する。ナンバープレート(13・22号機)、つかみ棒、前部の交換用アーノルドカブラーが付属する。(前里+平野)



## 南海 7100系 めでたいでんしゃ(ブルー)

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品 13,000円(税別)  
マイクロエース製品  
048-444-2944  
<http://www.microace-arii.co.jp/>

南海電鉄は2014年より加太線の観光誘致のため、沿線の海産物をアピールする“加太さかな線プロジェクト”を行っており、その一環として加太線の7100系ワンマン車に装飾を施した観光列車が登場した。乗るだけでおめでたい気分になること、ずっと乗っていただきたい“愛でたい”車輛であることを込めて“めでたいでんしゃ”の愛称が付けられている。

2016年に登場した第1編成は加太の名産である鯛と縁結びで有名な淡嶋神社をイメージしたピンク色であったが、翌年10月に登場した第2編成は内装・外装ともに海をイメージした水色を基調とし、車体には魚の鱗が表現されている。クーラーや客扉、ライトケースは濃青となり、車内は座席やカーテン、吊手に海洋生物がデザインされ、客扉の



窓にはシュノーケルの絵が描かれるなど、まるで海の中のような演出となっている。

製品は7100系2連をベースに2017年に登場した第2編成を再現。同社の得意とする鮮やかな塗装と精細な印刷により、車体に表現された鱗、めでたいでんしゃのロゴなどが鮮明に再現されている。客扉の塗分け、運転台後方の窓に描かれた目玉模

様や扉窓の絵も的確で、屋上はグレーのランボードと配管、青色のクーラーを別パーツ化により塗り分けられている。前面のジャンパ栓やホースは別パーツで表現され、栓の蓋部分の青色を再現。前面幌は2輛ともに付かない。

前照灯・尾灯はLEDで点灯。前面・側面表示器とワンマン表示は付属する先行シールから選択して貼り付ける。オプションには幅広室内灯とマイクロカブラーがある。先に発売された第1編成と揃えて、2018年11月に行われた2編成の“結婚”イベントを再現するのも面白いだろう。(竹内)



## パンダファミリー (7体入り)

**HO**  
1:87  
レイアウト用品 1,800円(税別)  
カトー製品  
03-3954-2171  
<http://www.katomodels.com/>

カトーから“フィギュアアニマル”シリーズの第一弾として、HOスケールのパンダが登場した。

座っているパンダ、歩いているパンダ、親子パンダ、子パンダ2頭、寝そべる子パンダが収録されている。スケールは1:87であるが、緻密な縮尺を追求する題材でもないで、マスコットとしてNゲージのレイアウトに置いては違和感ないだろう。愛嬌のある表情が魅力的であり、今後のシリーズ展開も楽しみである。(竹内)



## 国鉄 9600形

**No.16** 塗装済完成品  
天賞堂製品  
1:80 03-3562-0025  
G=16.5  
<http://www.tenshodo.co.jp/>

■製品一覧 (全て税別)

51047 北海道タイプ 切詰デフ 凸型テンダー ……44,000円  
51048 北海道タイプ 警戒色 切詰デフ 凸型テンダー ……44,000円  
51049 北海道タイプ 79615号機 主燈2燈 ……48,000円  
51050 北海道タイプ 79616号機 晩年タイプ (主燈1燈) ……44,000円  
51051 北海道タイプ 79616号機 最晩年タイプ 警戒色 ……44,000円  
51052 本州タイプ デフなし 凸型テンダー ……44,000円  
51053 本州タイプ 標準デフ (点検フラップ付) ……44,000円  
51054 九州タイプ デフなし (キャブ拡張窓) ……44,000円  
51055 九州タイプ 標準デフ ……44,000円  
51056 九州タイプ 門鉄デフ ……44,000円

大正期、大型蒸気機関車の構造設計でわが国独自の規格を確立したのが、平坦線及び旅客列車用の8620と勾配線及び貨物用の9600である。活躍範囲は四国を除く国鉄線全域から私鉄・専用鉄道に及び、さらには樺太と台湾にも同形機が投入され、その総数は約800輛に及び、国鉄現役蒸機として最後まで使われたのも9600であり、時代や地域に合わせた装備など外観の特徴は数え切れない。

まず空制化に際してエアタンクやコンプレッサー取付位置に多くのバリエーションが生じ、また北海道では冬期の作業安全をはかるためデフレクタを切詰めたり前照燈や手摺りを増設、九州ではキャブ下部にブレーキ機器点検弁の穴を開けるといった特徴が見られた。当初デフレクタは装備しておらず、これもまた数多くのバリエーションが存在する。

製品はプラスチックシリーズで2007年から翌年にかけて発売されたもの(本誌2008年5月号で詳しく紹介)の改良再生産といえるもので、写真の10タイプを一挙に発売した。改良点としては重量



51047



51052



79616号機も前回に続いてラインナップされる。

一方の本州タイプはデフなしが前回とは違う初期型テンダー、デフ付きはバイパス弁点検用の蓋が付いた形態。九州タイプも、デフなしはキャブ側面窓が拡張された形態とするなど変化をつけている。

ナンバープレートは特定番号機を除いて各タイプそれぞれ4種類ずつが付属。回転火の防しめ、ピストン尻棒のほか、北海道タイプにはバタフライスクリーンや機炭間の防寒カーテンが付属するなど、別添えのディテールパーツも豊富である。曲線最小半径は550mm(ピストン尻棒を付けない場合)。テンダー内にはDCCデコーダー用の8ピンソケットを装備している。

さまざまな国鉄貨車や客車を取り揃えて、蒸機最末期まで活躍した古豪の勇姿を堪能したい。

(前里+平野)



51048



51055



51049



51056

増加による牽引力の向上、動輪横動幅の見直しによるロッド湾曲の解消、テンダー標識燈の

ON/OFFスイッチ追加といった機構面での見直しが行われている。

10タイプの内訳は北海道タイプが5種、本州タイプが2種、九州タイプが3種。特に北海道タイプは

煙室扉・前端梁に黄色ゼブラの警戒色を塗った特徴的な姿が加わり、重装備で知られる79615・



51050



51051



51053



51054

## JR西日本 500系7000番代 ハローキティ新幹線

**N** 塗装済完成品 30,000円(税別)  
トミックス製品  
1:160 03-3695-3161  
G=9.0  
<http://www.tomytec.co.jp/>

トミックスから500系7000番代ハローキティ新幹線



が発売された。

ハローキティ新幹線はJR西日本沿線の魅力や情報を発信するために2018年6月に登場。“こだま”で使用している500系7000番代V2編成をベースに、車体は白をベースに屋根や窓まわりをピンク色に塗装。編成全体に亘ってハローキティやリボンの装飾を施している。

1号車はフリースペース“ハロ

ー!プラザ”として沿線の観光案内を展開。2号車は普通車自由席“KAWAII ROOM”となり、床面・カーテン・シートカバーにハローキティをあしらっている。一角にはフォトスポットも設けられ、ファンから家族連れまで幅広い乗客に人気である。現在、新大阪～博多間の“こだま”で毎日1往復運転中である。

製品はトミックスの500系7000番代“こだま”のカラーバリエーション。ピンク色が目を引く塗装に、リボンやキャラクターの派手なラッピングが

鮮やかに印刷されている。1号車は座席が撤去されフリースペースに改装された内装を再現。同梱のシールを貼り付けることで壁面やカーペットの柄まで再現できる。窓が小さいので外側からはあまり見えないが、車体を外してキティ色の世界観を味わいたい。さらに2号車のフォトスポット部分



もしっかり再現され、内装は付属シール対応としている。なお通常製品ではヘッドライ



トはオレンジ色LEDだが、本製品は電球色LEDを採用している。

車番や編成番号、屋上の号車番号は印刷済。パッケージはピンク色をベースにハローキティと車輪のイラストが入り、特別デザインのスリーブも付属。新幹線

ファンのみならず、キャラクターを愛する幅広い世代に歓迎される製品である。(山本)

1・2号車は付属ステッカーを用いてフリースペースの内装が再現できる



東北型

したC59をベースとしたバリエーションで、鋳鋼製従台車を装備した第1次改造車がプロトタイプ。実車通り箱型テンダーの戦前形を種車としており、従台車枠の穴に縁取りのある形態が再現されている。

一般的な第1次改造車に加えて、大型のスノーブローを装備した東北型の2タイプを発売。東北型では煙突周囲の小さな除煙板、運転席前方の旋回窓など、北東北で見られた特徴的な装備が再現されている。

ナンバープレートは第1次改造車が8・9・11号機、東北型は2・7・13号機が付属。その他の付属品は火室上のパイピングやATS発電機、テンダーのATS車上子、ランボード上の清浄剤箱、交換用ヘッドライトや副燈など既発売のC59に準じている。

追って“はつかり”“はくつる”“さくら”“あかつき”のヘッドマークを発売予定。D51やC61との奥中山重連など、優等列車や特急貨物牽引に活躍した勇姿を再現したい。(平野)

第1次改造車



## 国鉄 C60形

**No.16** 塗装済完成品  
1:80  
G=16.5  
トラムウェイズ製品  
03-3256-3522  
http://www.mmjp.or.jp/tramway

■製品一覧 (全て税別)  
第1次改造車 .....46,400円  
東北型 .....46,700円

C60形は戦後の幹線電化が進むなか、特甲線用であったC59を地方線区にも入線できるよう軸重軽減改造を行った形式である。従台車を1軸から2軸に変更し、動輪上の軸重はC59の16t超から15t前後にまで軽くなった。

1953~61年にかけて延べ47輻が改造され、C59戦前形を種車としたものは1~39、戦後形を改造したものは101~108の番号となった。新製された従台車は初期のものは鋳鋼製のLT254であったが、後に鋼板溶接のLT254Aに変更され、工程短縮や軽量化が図られている。

東北本線・長崎本線・鹿児島本線などで活躍。東北本線では客車時代の“はつかり”を盛岡~青森間で前補機として牽引、九州では“あかつき”



新塗装

## 新京成 N800形

**N** 塗装済完成品  
1:150  
G=9.0  
マイクロエース製品  
048-444-2944  
http://www.microace-arii.co.jp/

■製品一覧 (全て税別)  
N838編成 6輻セット .....23,900円  
新塗装 6輻セット .....23,900円

新京成のN800形がマイクロエースから再登場。

N800形は既存の800形・8000形を置替えるために2005年から投入された形式である。京成3000形と共通設計であり、日車ブロック工法を採用して部品の共通化、工数削減を図り製造コストを低減。車体はステンレス製だが、先頭車の前頭部分は普通鋼製として保守性を確保している。

登場当時はマルーンと白の帯色で、マルーンは4本のストライプで沿線自治体(松戸、鎌ヶ谷、船橋、習志野市)を表現した。また側面窓枠が黒色となっている点も京成車と異なる。先頭車はSRアンテナのほかIRアンテナを装備して京成千葉線への乗り入れに対応。



パンタグラフ車の屋上にはランボードがない。6輻編成×5本が存在。2014年からはジェントルピンクを基調にした車体塗装へ変更され、2018年に8月に増備されたN858編成は車内の案内表示器がLED式からLCD式となっている。

今回製品では登場時塗装と新塗装の2種で、旧塗装は前回製品と編成が異なり、搭載するクーラーは三菱製のもの。一方の新塗装は登場時から新塗装を纏うN848編成がプロトタイプであり、こちらもクーラーは三菱製となっている。

車体はブロック工法により扉部が異なる質感を塗装で表現。前回製品同様、新京成車の特徴であ

るランボードのないパンタ車屋根や、先頭車の屋根上にはIR無線・SR無線アンテナが再現されている。旧塗装のマルーン、新塗装のジェントルピンクともに鮮やかな仕上がりで、車番や表記類は印刷済。先頭車床下に搭載されている空気圧縮機を銀色に塗り分けているのも良いアクセントである。

動力は松戸寄りパンタ車にフライホイール付のものを搭載。前照灯・尾燈、前面表示器がLEDを用いて点燈する。前照灯は旧塗装が電球色、新塗装が白色で点燈し、急行灯はスイッチ付で点燈・消燈のどちらも再現可能。付属品は行先シール、オプションとして幅狭室内燈とマイクロカプラー自連(灰)がある。他の新京成の車輛や京成千葉線の車輛とともに楽しみたい。(竹内)

N838編成



## 京急 2100形 けいきゅん号

**N** 塗装済完成品 35,000円(税別)  
1:150  
G=9.0  
グリーンマックス製品  
03-5943-1715  
http://www.greenmax.co.jp/

グリーンマックスの京急2100形にけいきゅん号ラッピングが追加。

京急2100形は1998年に登場した18m級2扉クロスシートの優等用車である。京急では初となる転換クロスシートを採用し、ドア付近には補助椅子もある。制御装置はシーメンス製のGTO素子を用いたVVVFインバータを採用し、発進時に独特の音階が流れるようになっていた。前面は600形を基本としつつ、ワイパーカバーに車番をスリット文字で大きく表示するなど変更を加えている。

2008年からは東洋製のIGBT素子を用いた制御装置へと換装され、さらに2013年からは車体更新が行われ

ている。屋上はベンチレーターを撤去してクーラーを交換。換気扇も削減されており、妻面のルーバーは塞がれている。車内はLED照明となり、ドアの色調変更とチャイム設置、扉上に液晶ディスプレイを設けた。また車端部の窓が開閉式となり、カーテンを縦引き式のものに交換した。前面の非常用貫通扉にはイメージキャラクターである“けいきゅん”のステッカーが貼付され、2015年より



前面の先行・種別表示器がフルカラーLEDに交換されている。空間波無線の導入に向けて、SR



ドア横の120周年ステッカー、けいきゅんの

アンテナの取付も進められている。

2017年10月、翌年の京急120周年を記念して2149編成が“けいきゅん”のラッピング車になった。車体への装飾のほか、広告やマネーステッカー、座席の枕カバーにもけいきゅんと120周年ロゴマークがあしらわれ、2018年2月まで運行された。

製品では既発売の2100形更新車をベースにラッピングを再現。車体各所のキャラクター、前面と側面ドア脇の120周年ロゴマークを再現している。

付属ステッカーにはフルカラーLEDの前面先行・種別表示のほか、連番表示・側面表示・弱冷房表示・優先席表示・車椅子表示・ベビーカー表示を収録。ユーザー取付部品として、アンテナ・ヒューズ箱・避雷器およびSRアンテナが添付される。

前照灯・通過標識燈は電球色、尾燈は赤色で点燈。動力はコアレスモーター仕様を2151に搭載する。オプションには先頭車運転台側へのTNカプラーとトミック製室内照明ユニットLCがある。(山崎)

## ハルツ狭軌鉄道 99.222形

**HOm** 塗装済完成品  
1:87  
G=12.0  
TILLIG製品  
サンプル提供: チムニー  
03-5467-4371

1931年にベルリン機械製造会社(BMAG=シュヴァルトコフ)で3輻製造されたメーターゲージの1E1タンク機。狭軌ながらボイラーは標準軌の重入換用Dタンク機81と同等の能力を持つ大型機である。新造時のドイツ国鉄形式は99.22。

3輻のうち2輻は第2次大戦中にノルウェーの銅鉱山鉄道に供出され、1953年に現地で廃車解体されたが、1輻(99 222)はチューリングゲン地方のアイスフェルトーシェンブルン(Eisfeld-Schönbrunn)線で生き永らえて、廃線後はハルツに移動し、現在もハルツ狭軌鉄道会社(HSB)で使われている。

現在は給水温め器が東独時代に換装された混合式から原形のクノール式に変更され、番号や各表記も新造時に近い姿を取り戻している。

製品は2000年代前後…Ep5の姿をプロトタイプ



としており、レタリングや各部の形態もよく再現されている。構造的にはギヤボックスを内蔵したメタル製の主台枠に、プラ成型のボイラーやキャブ、各種ディテールを組み合わせている。

モーターはフライホイール付で、ユニバーサルジョイントとウォームギヤを経由して第3動輪へ伝動。そこからスパーギヤで第4・5動輪へも連動している。デジタルデコーダー用NEM662ソケットを備えており、サウンドも再現可能である。

前後ライトは進行方向により切替点燈式。別添え部品はバッファヘッドやスノーブロー、ピストン尻棒など。最少通過可能半径は310mmとされている。チムニーでの価格は60,250円+税。(前里)



## ハルツ狭軌鉄道 ボギー客車

**HOm** 塗装済完成品  
1:87  
G=12.0  
TILLIG製品  
サンプル提供: チムニー  
03-5467-4371

機関車99 222に牽引させるのに好適なボギー客車。東独時代、多くの狭軌鉄道ではザクセン鉄道標準設計による木造車や半鋼製車が使われていたが、1960年代には近代化が始まった。

ハルツ地区も例外ではなく、1920年代のヴィスマー(Wismar)製ボギー車が主役だった。更新により、下降式だった側窓は上部1/3が開くだけの



アルミ枠となり、外板は溶接構造に改められた。しかしデッキはオープンのまま、台枠や台車も旧来のものが使われている。製品は欧州型客車としては一般的なブラ主体の

構成で、室内燈も取付け可能。カプラーは台車マウントで、通常のビューゲル式のほかにドローバー取付用のアタッチメントへの交換が可能となっている。ブレーキ管やバッファ

ヘッドは別添え部品で付属する。今回紹介するのは荷物車だが、2等車もセットで用意されている。チムニーでの価格は6,500円+税。(前里)



製品は長らくこの形式を発売し続けてきたフライシュマンの最新バージョンで、最終期の姿を再現したものである。機関車番号は610 439。元の11439で、シャフハウゼン州のフッペンを取り付けている。

動力装置は頑丈なダイキャストフレームの中央にフライホイール付両軸モーターを置き、ユニバーサルジョイントとウォーム&スパーギヤを介して6軸中4軸を駆動。デジタルデコーダーのソケットはNEM651を装着している。

前照灯・尾灯はLEDで点灯。デジタル仕様ではスイス独特の切替点灯も再現可能である。カプラーにはショートカップリングシステムを採用。標準のアーノルトタイプとフライシュマン密着タイプのどちらでも使用可能となっている。別添え部品として展示用の欠取りのないスカートが付属する。チムニーでの価格は26,000円+税。(前里)

## スイス国鉄 Ae6/6形 貨物部門仕様

**N** 1:160 G=9.0  
 塗装済完成品  
 フライシュマン製品  
 サンプル提供：チムニー  
 03-5467-4371

1950年代から120輛が量産され、1970年代までスイス国鉄の第一線で活躍したAe6/6。1999年には優等旅客列車の牽引を新型のRe4/4やRe6/6、Re460などに譲って全機が貨物部門に所属することとなり、形式もRe610と改められた。

塗色は当時の標準色である赤に、青地に白の“Cargo”と大きな文字を加えて面目を一新した。そして2002年から本格的な廃車が始まり、2013年には全車が現役を引退している。



2610系 L/Cカー

準仕様に改良されている。車番やL/Cカーのエンブレムなどは印刷済。2610系ロングシート編成は車内の椅子はもちろん、B更新を受けて側窓の一部を固定化、ドア上に水切りが追加されている点を

## 近鉄 2610系・2680系

**N** 1:150 G=9.0  
 塗装済完成品  
 グリーンマックス製品  
 03-5943-1715  
<http://www.greenmax.co.jp/>

■製品一覧 (全て税別)

|                     |         |
|---------------------|---------|
| 2610系 L/Cカー 4輛セット   | 20,300円 |
| 2610系 B更新車 4輛セット    | 20,300円 |
| 2680系 鮮魚列車タイプ 3輛セット | 15,900円 |

グリーンマックスから近鉄2610系・2680系が登場。計3バージョンが発売となった。

2610系はL/Cカーに改造されB更新未施工の2626編成、ロングシート化されB更新を受けた2620編成、2680系は鮮魚列車用となった2010年頃の姿。各編



L/Cカー(左)、更新車(右)で異なる室内や窓枠を表現

成とも動力付きで、コアレスモーター仕様の動力ユニット、ヘッドライトが電球色LEDと現在の標



L/Cカー編成と作り分けている。

行先表示は、L/Cカー編成は付属ステッカーによる選択式、ロングシート車は前面が“急行 宇治山田”。

2680系は“鮮魚”が印刷済である。

2610系は急行を中心にロングシート車の2連を併結して6連で使用されることが多い。既発売の1252



2680系 鮮魚列車タイプ

系など他の通勤車と併結するなど楽しい。(山本)



2610系 B更新車

## コンテナ各種

**N** 1:150  
 塗装済完成品 各2,000円(税別)  
 ブラッツ製品  
 054-345-2047  
<http://www.platz-hobby.com/>

プラ成型品に高精細インクジェット印刷で各事業者のデザインを再現したブラッツのNゲージコンテナ。それぞれ番号違い3個セットで発売。(山崎)

●CON-7 センコー U30Aタイプ…内容積約30立方



CON-8



CON-7



CON-9



CON-10

メートルの20ft私有コンテナU30Aのうち、物流会社センコー所有のタイプを再現。コンテナ番号112・114・118の3個セットである。

●CON-8 西濃運輸 U31Aタイプ ハンガーコンテナ…内容積約31立方メートルの20ft私有コンテナU31Aのうち、カンガルー便で知られる西濃運輸が保有していた特殊な装備のもの。衣料輸送専用として内部にハンガーをそのまま掛けることが可能で“ハンガーコンテナ”と名付けられた。2000年頃に少数が使われ、現在は通常仕様となっている。製品では“ハンガーコンテナ”の文字が入った特殊仕様の姿を再現。番号は100・103・105である。

●CON-9 水島臨海通運 U30Aタイプ…こちらは倉敷市を中心に展開する水島臨海通運のU30Aコンテナ。5基運用されていた中から、以前製品化した1～3番に続き4・5番をプロトタイプとして、4番は2000年代頃に見られた赤帯と青帯が反転した仕様も収録した3個セットとしている。

●CON-10 丸和通運 クールコンテナ UF16Aタイプ…12ft・5t積の冷凍コンテナUF16A形に、同タイプで最大勢力を占める丸和通運のものが登場。特徴的な冷凍機部分は印刷で再現している。2018年11月の最新型から658番、12月に登場した最新型732・737番の3個セット。



## 国鉄 Wra1

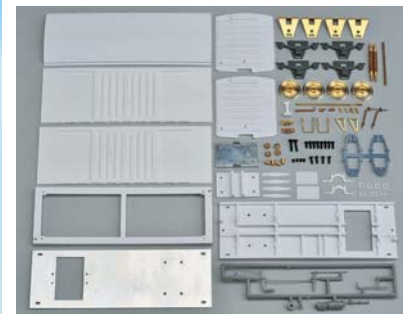
**OJ** 1:45 G=24.0  
 キット・完成品  
 ホビーモデル製品  
 03-3672-8560  
<http://www.hobbymodel.jp>

■製品一覧 (全て税別)

|        |         |
|--------|---------|
| キット    | 25,000円 |
| 塗装済完成品 | 40,000円 |

ホビーモデルの3DプリントOJ車輛シリーズ。今回は高度成長期以降に活躍した2軸有蓋車の代表形式。Wra1が登場である。

Wra1は1962年に登場。荷重は従来の2軸有蓋車より2t多い17t積となり、妻板に高張力鋼板を使用。内張りをベニヤ板として大型化による重量増加を抑えている。1966年まで延べ17,300輛以上が作られ、ワム8000とともに物流の主力として活躍。私鉄向けにも同型車が作られ、東武では120輛を保有して国鉄との直通運用に使用した。



製品は板キットの形態だが、主要部分を3Dプリントで成型して複雑なプレス凹凸などを表現しているのが特徴。車体は表面・側面・屋根が積層式ABS樹脂で、瞬間接着剤やABS用接着剤を用いて組み立てる。

下回りはアルミ製の床板にABSの台枠などを組み合わせ。台車は真鍮プレスの枠に光造形レジン製の軸受・ブレーキシューと、適材適所に様々な素材を活用しているのが同社らしい。ブレーキテコやステップはワイヤーカットされた真鍮板材をプレス加工して要所を引き締めている。また床板は片側の軸受をシーソーさせる三点支持として、追従性を確保している。真鍮挽物の車輪が付属。カプラーはケーティNo.804に対応し、キットでは別売。完成品では取付済となる。国鉄貨車のバリエーションとしてはもちろん、東武・越後交通仕様として変化を楽しむのも面白いだろう。(平野)

## JR貨物 EH500 3次形 後期仕様

**N** 1:150 G=9.0  
 塗装済完成品 10,200円(税別)  
 カトー製品  
 03-3954-2171  
<http://www.katomodels.com/>

カトーのEH500に3次形後期仕様加わった。

EH500形はJR貨物が1997年から導入した3電源対応の交直用電気機関車である。首都圏から函館までの通し運転を目的として開発され、軸重を抑えつつ勾配区間への対応として高い粘着力が求められ、また旅客会社に支払う線路使用料を削減するため2車体で組成される8動軸機となった。試作機・1次形・2次形・3次形と増備時期毎にライトケース位置や塗装に変化が生じている。

製品は2018年現在、JR貨物仙台総合鉄道部に所属する73～81号機をプロトタイプとして、塗分けが変更された前面窓周り、形状が変化した2エンド側屋上の圧縮機換気屋根を再現。前面ヘッドマークステータと屋根上GPSアンテナがない姿となる。

赤とグレーの塗装は側面ルーバー部分の塗分けもシャープである。標記類は印刷済で、製造銘板



は東芝。全検標記は“25-3 新製”。ATS関連標記は“PF”“SF”“Ps”“C”となっている。基本仕様は既発売のものと同様。動力はフライホイール付モーターを

各車体に搭載し、実車同様の8軸駆動でパワフルかつスムーズな走行性能を発揮する。片方の車体は

動力台車にトラクションタイヤがなく、スムーズな協調が考慮されている。前照灯は電球色LEDで点灯。尾灯は点灯しないが、消灯時のライト周りを的確に再現している。

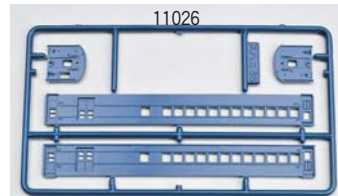
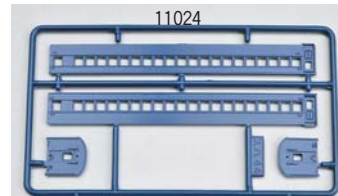
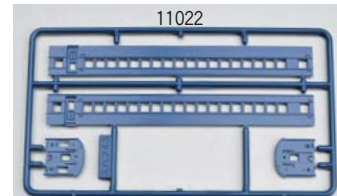
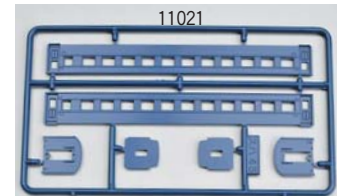
列車無線アンテナ、信号炎管、碍子、解放テコはユーザー取付部品で付属。カプラーはアーノルドタイプを装備し、交換用ナックルカプラーが付属する。選択式ナンバープレートには69・73・77・81号機が収録されており、69号機を選択すると門司機関区仕様が再現できる。既発売の3次形とあわせて活躍させたい。(竹内)

## 着色済みエコノミーキット

**N** 1:150  
 キット 各1,200円(税別)  
 グリーンマックス製品  
 03-5943-1715  
<http://www.greenmax.co.jp/>

■製品一覧 (全て税別)

|                  |
|------------------|
| 11021 スハ43 (青色)  |
| 11022 スハフ43 (青色) |
| 11023 スハフ42 (青色) |
| 11024 スハ44 (青色)  |
| 11025 マニ37 (青色)  |

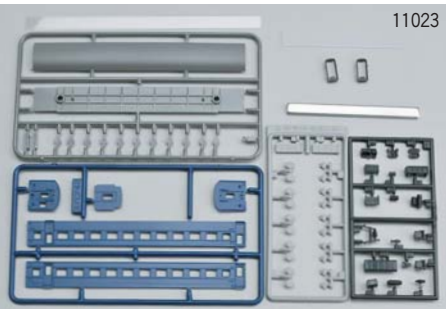


11026 スハニ35 (青色)

グリーンマックスの着色済みエコノミーキット。2018年9月号と先月号で茶色成型の旧型国電・旧型客車を紹介したが、今回は初めての青色で、スハ43系を中心とした切妻の客車6種をラインナップしている。

スハフ42はHゴム支持の客扉に改装された形態。パレット輸送対応の荷物車マニ37をラインナップするなど、バリエーション拡充にも好適である。それぞれ屋根・床板のほか、ガーランドベンチレーター、床下機器、窓セル、ウエイトが付属。別

途台車・車輛マーク等が必要である。(山崎)



11023

## 自由型単端／レールカー

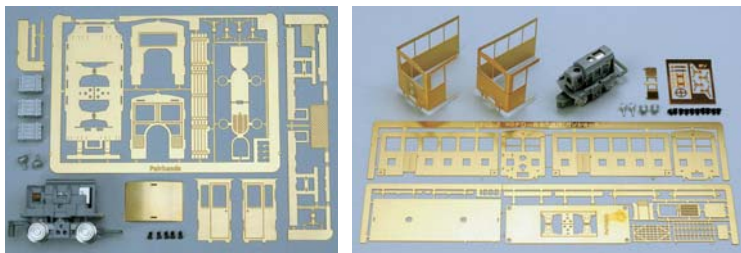
**HO<sub>n</sub>30** キット  
ベアーハンズ製品  
1:87  
G=9.0  
0276-46-1462  
<http://homepage3.nifty.com/PAIRHANDS/>

ベアーハンズのHOナローキット新製品。(平野)

●はこてつ動力付きレールカー…リオグランデサザンなどに見られた荷台付きレールカーを寸詰まりにしたスタイル。すんぐりしたキャブにちよこんと飛び出したボンネットが可愛らしい。

製品はトミーテックのはこてつ動力が付属する真鍮エッチングのキット。動力ユニットのギヤケースをボンネットに見立ててラジエーターグリルを貼り付ける設計がユニークである。ホワイトメタルのヘッドライトと木箱が付属。木箱は荷台上の動力ユニットを隠すとともに、補重にも一役買っている。4,500円。

●自由形単端（ガソショーター）…沼尻のガソ101をもとに、側窓一枚分ほど短くしたスタイル。



日本の軽便風景に広く馴染む形態である。

こちららはこてつ動力を土台とするエッチングキットだが、一段と長い車体は側面・妻面を一体

の折曲済としており、内板を介して前後を接合すれば簡単に箱組みできる。ホワイトメタルのライトとベンチレーター、エッチングの排障器や軸受、妻面の折畳み式荷台が付属。屋根板はエッチングを湾曲させて被せるもので、腕に覚えのある向きは丸くすぼまった屋根端部を表現してみるのも良いだろう。5,800円。



1030/1230系 パノラマSuper1131編成

## 名鉄 1030/1230系・1850系

**N** 塗装済完成品  
1:150  
G=9.0  
グリーンマックス製品  
03-5943-1715  
<http://www.greenmax.co.jp/>

■製品一覧（全て税別）  
1030/1230系 パノラマSuper1131編成 6輛編成 ……28,900円  
1850系1851編成 2輛セット（動力付き） ……13,900円  
1850系1851編成 2輛セット（動力無し） ……10,900円

名鉄の展望席付き一部特別車特急用機器流用車1030/1230系、1850系の最後に残った2編成が登場。

1030/1230系は、本線特急の一部特別車化のために1992年に登場した。7500系の走行機器を一部新製しつつ流用し、既に登場していた1000/1200系と

同様の車体を組み合わせている。種車と同様に全電動車で、パンタグラフ配置が1000/1200系の編成とは異なっている。

補助設備は特別車にトイレ、一般車に車掌室を設けた1000/1200系B編成と同じ配置となった。またこの6連特急に対するラッシュ時等の増結用として1800系が登場したが、同じく7500系機器流用仕様の1850系も同年に登場している。



機器の老朽化などから2200系に置換えられて編成数を減らしたが、現在1131編成・1851編成が各1本ずつ残っている。

製品は最後に残った1030/1230系、1850系を現行仕様で再現。先に発売した1000/1200系、1800系と同様、専用の床下機器を起こしてパンタグラフ位置の違いなどを表現している。

動力はコアレスモーター仕様を6連の1331、動力付き2連の1951に搭載。前照灯は電球色LED、尾燈は赤色で点灯する。1030/1230系前面の愛称表示、車番や対空表示は印刷済で、種別・先行方向幕、優先席・弱冷房車・号車番号表示は付属シールから貼りつける。無線アンテナ・信号炎管・臭気抜き・電話アンテナ・避雷器・ヒューズボックスはユーザー取付である。増結の際は付属のドローパーホルダー付きスカートとドローパーを使用する。オプションにはトミックス室内照明ユニットがあるが、展望室部分には取付けられない。(山崎)



1850系1851編成（動力付き）

## サウンドカード D51・E235系

制御機器  
カトー製品  
03-3954-2171  
<http://www.katomodels.com/>  
■製品一覧（全て税別）

サウンドカード<D51> ……2,600円  
サウンドカード<E235系> ……3,000円

カトーのサウンドシステム用カードにD51とE235系が加わった。

D51用はJR西日本の動態保存機（D51 200）の取材をもとに、走行音だけでなく機器類の動作音までリアルに再現。ファンクションボタンを押すことで、汽笛や投炭などの作業音や機器から発する音を鳴動させることができる。コントローラー同調タイプであり、発車から加速の操作などのリアルな運転感覚を手軽に楽しむことができる。

E235系用は三菱製SiC素子製のVVVFインバータ制御装置の励磁音が収録され、ドア作動音と車内で鳴るドアチャイム、ホームドアのチャイムが“ドア開閉音”として収録されている。こちらはサウンド同調タイプで、走行音に追従した運転が楽

しめる。コントローラー優先モードが搭載されており、パワーバックの操作に追従させて運転を楽しむこともできる。



パッケージにはファンクションラベルが収録されており、サウンドカード使用時に用いればボタン操作のガイドにもなる。(竹内)



## 国鉄/JR東日本 115系500番代 弥彦線

**No.16** 塗装済完成品 10,900円（税別）  
1:80  
G=16.5  
マイクロエース製品  
048-444-2944  
<http://www.microace-arii.co.jp/>

マイクロエースから、弥彦線投入当初の115系500

番代が登場。

115系は勾配線区や寒冷地での運用を想定して1963年に登場。500番代は1984年の越後線・弥彦線電化において必要な車輛を用意するため、モハユニットに運転台を取付けた仕様である。塗装は弥彦神社にちなみ、白色をベースに朱色と黄色の帯が入るものとなった。当初は非冷房で、JR化後に



妻面に取り付けられたスピーカーを再現

に前面の複雑な帯の塗分けは見事である。

動力はクモハ115に搭載。燈火類はON/OFFスイッチ付、前面種別幕は付属シールで再現する。オプションには幅広室内燈とマイクロカプラー密連・黒がある。(山崎)



## 国鉄 485系 やまばと・あいづ

**N** 塗装済完成品  
1:150  
G=9.0  
トミックス製品  
03-3695-3161  
<http://www.tomytec.co.jp/>

■製品一覧（全て税別）  
9輛セット ……34,900円  
9輛セット（室内燈付） ……43,000円

トミックスのヨンスントオ50周年記念シリーズ。2018年11月号で紹介した583系“金星”に続いて、485系“やまばと”“あいづ”が発売された。



室内燈組込済の仕様も発売。通常仕様とパッケージデザインを変えている（右）

1968年に奥羽本線が山形まで交流電化され、同年10月1日のヨンスントオ改正で485系は上野～山形の“やまばと”にも使われるようになった。同時に“やまばと”から分離され単独運行となった上野～喜多方の“あいづ”にも投入。磐越西線の有効長の関係から9連とされ、クハ481形が登場した。急勾配の連続する板倉峠にあわせてMT比2:1とされ、先頭車と食堂車を除いた全車が電動車となっている。

製品は“やまばと”“あいづ”が運転開始した当時の編成を再現。車番や標記類は印刷済である。当時は2等級制だったため、クハ481には“1等”の表示が入っている。先頭車はボンネット型で、

タイフォン形状をクハ481はシャッター付き、クハ481は回転式と作り分け。車端部のトイレ床下には粉碎式汚物処理装置を再現するなど、細かい部分までこだわりを見せている。

既発売の“金星”と同様、通常品と室内燈取付済の2アイテムが発売。イラスト入りのケースも通常品は昼間の状態、室内燈取付済は夕暮れの状態としている。記念製品としてはもちろん、東北筋の電車特急の一形態として増備するのも良い。(山本)



## バスコレクション 第25弾

**N** 塗装済完成品 各1,000円（税別）  
1:150  
トミーテック製品  
03-3695-3161  
<http://www.tomytec.co.jp/>

バスコレ通常シリーズの第25弾。今回は日野ブルーリボンといすゞエルガを、北海道から沖縄にわたる全国の事業者の仕様でラインナップする。

事業者は日野ブルーリボンシティが北海道北見バス・熊本電気鉄道・ジェイアールバス関東・東陽バス・東急バス・横浜市交通局・奈良交通・広

島電鉄で、日野ブルーリボンⅡがちばフラワーバス・京阪バス・本四バス開発。いすゞエルガは西日本鉄道である。

ブラインドパッケージで全12種＋シークレットを発売。無塗装バス1台入りの専用ケース（2,200円＋税）も用意される。(山崎)





## 国鉄 C51 80号機

**N**  
1:150  
G=9.0  
キット 30,000円(税別)  
ワールド工芸製品  
048-687-7193  
http://www.world-kougei.com

ワールド工芸のC51に、整ったプロポーションで知られる80号機が再登場。

C51 80は1923年汽車会社製。仙台局に配属され、福島・仙台・青森・盛岡と東北で長く使われた後、1954年に米子へと移動、1965年に廃車となるまで山陰で活躍した。最後まで原形から給水温め器とデフレクタを追加した程度の美しい姿を保ち、オ

リジナルのスポーク動輪に化粧煙突、テンダーは石炭容量を増大した12-17形を装備している。

ワールド工芸のC51はシャープなスポーク動輪や繊細な上廻り、全体のシルエットも優れた人気のアイテムだが、今回は2011年に発売された80号機を改良再生産。具体的には汽笛の取付位置や一部の配管形状が実物にあわせて変更され、テンダードライブの動力ユニットを現行の仕様としている。

ボイラーやランポー

ド、キャブなど主要部分は真鍮エッチング&プレス製、煙突やドームなどディテール部品にロストワックスを使ったお馴染みの構成。動輪は大径のスポーク輪心がダイキャストで再現され、タイヤは落ち着いた黒メッキ仕上げとなる。ロッド類はクロスヘッド・リターンクランク・加減リンクが洋白ロスト、その他がステ

ンレスのエッチング。先輪・従輪などはブラ輪心でスポークが表現されている。

動力を内蔵する12-17テンダーは先に発売されたC53・C54と同様に洋白エッチング主体の構成で、

手摺りや配管形状を80号機にあわせて変更。カブラーは前部がメタル製のダミー、後部はアーノルドだが、マグネティックカブラーにも交換可能で前部はZゲージ用#905、後部にはMT-7が対応する。キットは在庫僅少となっており、塗装済完成品の発売時期は追って同社ホームページで発表される。(平野)



基本セットA

## JR東日本 253系 “成田エクスプレス”

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品  
トミックス製品  
03-3695-3161  
http://www.tomytec.co.jp/

■製品一覧(全て税別)

|          |         |
|----------|---------|
| 基本6輛セットA | 22,800円 |
| 基本3輛セットB | 13,800円 |
| 増結3輛セット  | 10,500円 |

トミックスの253系N'EXに6輛編成が登場。

253系は成田国際空港へのアクセス特急“成田エクスプレス(N'EX)”の専用車輛として1990年に3輛編成21本が登場した。その後需要の増加に伴い1992~96年にかけて中間車が増備され、12本が6輛編成となった。増備された中間車は屋上のビードがなくなるなど各部の仕様変更されている。2002年には台車や内装を変更した200番代2本がサッカーW杯開催に合わせて増備された。

2009年には後継となるE259系が登場し、253系は成田エクスプレスから撤退。200番代のみ制御装置VVVF化と塗装変更を受けて1000番代となり“日光”“きぬがわ”で活躍し

ている。また3輛編成2本が長野電鉄へ譲渡され“スノーモンキー”となっている。

トミックスの253系は実車の登場から間もなくハ

イグレード仕様で発売された息の長い製品だが、今回は車内更新を受ける前をプロトタイプとして6輛編成が新登場。増備された中間車モハ253-100・モハ252・サハ253が新規製作され、低屋根部分の面積やビードがなくなった屋根などの差異を的確に再現している。

車内はクロ253-0の1人掛け座席、クロ253-100の千鳥配置された1人掛け・2人掛け座席が作り分けられ、普通

車は座席間隔が広いボックス式クロスシートを再現。車体の塗分けも鮮明で、“N'EX”ロゴやグリーン車表示は印刷済。車番は転写シートによる選択式となる。

前照灯・尾灯は電球色LEDで常点灯対応。先頭車の床下には併結時用のON/OFFスイッチを装備する。フライホイール付動力や新集電システム採用が今回リニューアルされた部分で、動力は基本セットA・Bのモハ253-0に搭載する。連結面はTNカブラーSPを標準装備し、車端部のトイレタンクも再現されている。

ユーザー取付の屋上アンテナが付属。転写シートは基本セットにのみ付属する。オプションとして、常点灯用室内照明ユニット(LED)白色がある。各セットを組み合わせると実車の様々な編成パターンを再現したい。(竹内)



増備された中間車はビードのない屋根上やパンタ周りの配管を作り分け(手前)



クロ253は0番代(左)と100番代(右)で異なる座席配置を再現している



基本セットB

## 旧型国電資料写真館~飯田線11クハ68414+クモハ43015

CD-ROM 2,000円(税別)  
タヴァサホビーハウス製品  
03-3371-2482  
http://www.tavasa.jp

タヴァサホビーハウスの電子版資料写真集。今回は飯田線を走ったクハ68414・クモハ43015の模型製作向け資料をCD1枚に収めている。

写真は2輛とも車体、空気側床下機器、電気側床下機器、室内の四章に分けられている。部分写真から全体まで様々な角度で撮影されており、2輛の性能諸元表、末期の運用予定表も資料として付属している。

OSはWindows7に対応、メモリー量は512MB。

Adobe Reader9と倍速以上のCD-ROMドライブに16ビット以上のカラーモニターが必要となる。同社店頭と通信販売のみでの取扱い。(山崎)



## ドイツ鉄道 193形

**HO**  
1:87  
G=16.5  
塗装済完成品  
ロコ製品  
サンプル提供: チムニー  
03-5467-4371

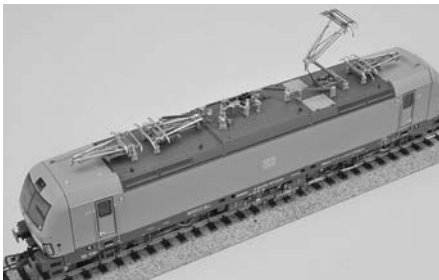
2010年以降、欧州を中心として世界各地に普及しつつあるシーメンス製標準タイプ電機の最新型が、今回紹介するVectronである。

模型では既に数年前からニュルンベルクメッセの欧州新製品最新情報で、各メーカーからの各スケール新製品を頻りに紹介しており、日本でもカトラーがアムトラックACS-64(同形式はユーロスプリンターとVectronを基にシーメンスのサクラメント工場で製造)をNゲージで製品化するなど、着実に製品数を増やしつつある。

今回紹介するのはROCOのHO製品で、DB-Cargo(ドイツ鉄道 貨物)仕様である。同社ではこ

の他に、機関車リース会社MRCE 193やRAILPOOL 193をはじめ、スイスBLS-Cargo 475、チェコČD-Cargo 383、ポーランドPKP-Cargo、オーストリアÖBB-Cargo 1293、オーストリアCargoserv 193、オーストリアSETG 193、スイスSBB 193、ハンガリー-GySEV 471.5など、数多くのバリエーション展開を企画している。

これらのバリエーションに共通しているのはいずれも貨物仕様ということ、パンタグラフを4基装



キハ48-500セット

## JR東日本 キハ40系 更新車・五能線

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品  
トミックス製品  
03-3695-3161  
http://www.tomytec.co.jp/

■製品一覧(全て税別)

|             |         |
|-------------|---------|
| キハ40-500(M) | 7,100円  |
| キハ40-500(T) | 4,600円  |
| キハ48-500セット | 10,300円 |

トミックスのキハ40系に新バリエーション。

1977~82年に製造されたキハ40系は各地の非電化路線に投入され、JRにも継承された。500番代およびそのトイレ無し仕様である1500番代は寒地仕様で、東北地方にはキハ40・48が導入された。側面窓は上段下降/下段上昇のユニット窓で、空気バネ台車を装備している。なお初期の車輛は側面の縦樋が外付けだったが、製造途中から内蔵型に変更されている。

JR東日本では保有するキハ40系に対し機器更新と冷房設置を行い、使用線区ごとに地域色を導入しているが、五能線はクリームに青帯を配したものととなっている。

製品は2018年1月号で紹介した男鹿線仕様が続くもので、今回は全て更新車である。側面縦樋はキハ40は2種とも外付け、キハ48は2種とも内蔵の組



キハ40-500(M)



キハ40-500(T)

## トミックス総合ガイド 2018-2019年版

カタログ 1,800円(税別)  
発行: トミックス  
03-3695-3161  
http://www.tomytec.co.jp/

トミックスの最新版カタログ。表紙は昨年末にNゲージで製品化された最新ロマンスカー小田急70000形GSEで、巻頭には歴代のロマンスカーを振り返りつつGSEを紹介する特集が組まれている。

備した多電源機(交流25kV 50Hz、交流15kV 16-2/3Hz、直流1,500V、直流3,000V)で、定格出力6,400kW、最高速度はMRCE、RAILPOOL、BLSが200km/h、その他が160km/hであることなどである。

外観的には塗色やレタリングがそれぞれ独特であり、台車周辺に取付けられる保安装置の車上子が、各国独特のものであることが特徴となっている。

4基のパンタグラフは、1エンド側から順にスイス、イタリア、オランダ直流、そしてオランダ交流、ドイツ、オーストリア用とされているようである。なお資料によってはスイス用とイタリア用は互換性があると記されている。

ちなみにDB-Cargoへは2017年12月の1号機以来、半年の間に60輛のVectron…193.3形が納入されている。

製品は車体や台車外枠などがブラ成型で、動力はダイキャストフレームにフライホイール2個付の両軸モーターを取め、ユニバーサルジョイントからウォーム&スパーを介して4軸全ての車輪を駆動する一般的な構造。

別添品はワイパーや手摺、スノープロウなどのほか、種々の保安装置が含まれる。説明書に示されているのはEuroloop Zub 26(シーメンス製汎用)、RSC4、Integra-Signum 2(主にスイス)、Zub 262(主にドイツとスイス)、LZB(おもにドイツ高速線とオーストリア)の5種。このうちRSC4とZub 262は曲線通過に支障するので、展示時のみの取付けとなる。チムニーでの価格は27,500円+税。(前里)

み合わせになる。

その他の仕様は既発売のものと同様、複雑な地域色を鮮明に塗分け、JRマークも印刷済である。台車は黒色のDT44AでHゴムも黒色、キハ48セットは500・1500番代が各1輛の内容で、動力は500番代に搭載する。

TNカブラー標準装備のHG仕様で、前面種別幕は“普通”が取付済。交換用として“快速”“臨時”を収録する。タイフンはシャッター式とスリット式それぞれの大小4種から選択して取り付ける。このほか信号炎管・列車無線アンテナ・携帯電話用衛星アンテナ・幌棒・排障器・トイレタンクが付属。車番・車椅子対応マーク・ベビーカーマークはインレタから転写する。

前照灯・尾灯・前面種別幕は常点灯対応でON/OFFスイッチ付き。前照灯はカラープリズムにより電球に近い色で点灯する。室内照明ユニットがオプションで取付可能。実車と同様に男鹿線仕様との混色を楽しむのも良いだろう。(山崎)

線路関係では階層ビームと階層駅の活用方法を配線例とともに詳しく解説。トミックス製品のコンセプトがまとめられ、ベーシックセットとレールセット、車輛製品の紹介と続く。所々に発売予定品も掲載され、レール関連・制御機器、建物・アクセサリやレイアウト用品のほか、16番製品のラインナップも網羅している。巻末にはパーツ類と対応リストを収録。A4判496ページ。(竹内)



## 照葉樹

**N** レイアウト用品  
トミックス製品  
03-3695-3161  
<http://www.tomytec.co.jp/>

### 製品一覧 (全て税別)

8189 グリーン 4本セット .....900円  
8190 ライトグリーン 4本セット .....900円

トミックスの完成樹木。いままで様々な枝振りをラインナップしているが、常緑広葉樹をイメージ

した2種類が加わった。  
既発売の常緑樹よりも枝が上へ向かって伸びた



形態、幹や枝は針金を縫ったものに茶色の被覆を施し、粒の細かなフォーリッジで葉を表現した本格的な作りで、森林や街路樹などに広く使える。(平野)



## トンネルポータル/樹木各種

**N** レイアウト用品  
ポポプロ製品  
03-3526-2071  
<https://www.popopro.jp/>

ポポプロとポポプロクラフトから発売されて

いたジオラマ用品が、ブランド名やパッケージを変え、ポポプロの「memory's」として再登場。併せて登場した新製品を紹介する。(山崎)  
●植栽 (円すい形) ... 庭・生け垣・花壇などに植えられ、円錐形に切り揃えられた小ぶりの樹木を再現。高さ40mm (700円)、50mm (800円)、60



ト加工によるトンネルポータル。茶色のレンガと灰色のコンクリートがあり、それぞれに



mm (900円) の3種を、それぞれ5本セットで発売する。併せて通常の形状の樹木各種もリニューアル再販されている。

●トンネルポータル... MDFのレーザーカッ

複雑用と単線用の計4種をラインナップする。レンガ・単線が800円、レンガ・複線が1,000円、コンクリート・単線が700円、コンクリート・複線が900円。

●壁・塀...こちらもMDFをレーザーカットしたもの。茶色のレンガ模様とグレーの石積み斜め模様の2種が用意される。また他の製品は1:150サイズのみだが、この製品には1:80サイズも用意される。計4種で各1,000円。



阪急 8000/8300系 1次車  
グリーンマックス製品 <塗装済完成品>



JR北海道 キハ261系1000番代 1・2次車 新塗装トミックス製品 <塗装済完成品>



JR東日本 E751系「つがる」マイクロエース製品 <塗装済完成品>



東急 6020系 大井町線グリーンマックス製品 <塗装済完成品>



小田急 60000形 MSEマイクロエース製品 <塗装済完成品>



JR東日本 253系 成田エクスプレス トミックス製品 <塗装済完成品>



JR西日本 キハ58系 いさり火 トミックス製品 <塗装済完成品>



JR東日本 キハ40系 更新車 五能線 トミックス製品 <塗装済完成品>



JR東日本 E231系3000番代 川越・八高線 トミックス製品 <塗装済完成品>



北越急行 HK100形 トミーテック製品 <ディスプレイモデル>

## マイクロスピーカーシステム

パーツ 9,980円 (税別)  
マイクロエース製品  
048-444-2944  
<http://www.microace-arii.co.jp/>

鉄道模型に簡単に搭載できるスピーカーシステムがマイクロエースから登場。

製品はバッテリーとスピーカーが搭載された基板、サイズ調整用のスペーサーで構成される。Bluetoothにより音源機器とペアリングし、音声

を再生することができる。音源機器へのアプリケーションなどのダウンロードは必要ない。

Bluetoothにより製品をペアリングすると、基板上の橙色LEDと青色LEDが点滅する。バッテリーは満充電するとおおよそ2時間使用可能で、充電に



USBケーブルで簡単に充電が可能 (右)

用いるACアダプタやUSBケーブル (MicroB) はユーザーが用意する。充電中は基板上の橙色LEDが点灯し、充電が完了すると青色LEDが点灯する。なお、USBケーブルで給電しながらのスピーカーの使用も可能である。

鉄道模型の車内に搭載し、走行音などを再生する使い方がお勧め。とくに加工をすることなく手軽に搭載できる。鉄道模型に限らず、他ジャンルの模型においても活用できる製品である。(竹内)

## 小田急 60000形 “MSE”

**N** 1:150 G=9.0  
塗装済完成品  
マイクロエース製品  
048-444-2944  
<http://www.microace-arii.co.jp/>

### 製品一覧 (全て税別)

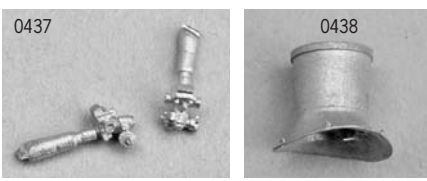
基本6輛セット .....25,400円  
増結4輛セット .....17,700円

小田急60000形は、日本初の地下鉄線内を営業運行する特急車輦として2008年に登場。多種多様な運行が可能な特急列車として“Multi Super Express” (MSE) の愛称が付けられた。30000形“EXE”以来の20m級ボギー特急車だが、地下鉄乗り入れのために全高・全幅が若干縮小されている。外観はフェルメールブルーの車体にロマンスカー伝統のパーミリアンとホワイトの帯を窓下に纏

## 国鉄蒸機用パーツ

パーツ  
No.16  
1:80  
金岡工房製品  
0480-62-4531  
<http://www.kanaokakoubou.sakura.ne.jp/newpage2.index.html>

金岡工場の細密ロストワックスパーツ。(前里)  
●0437 減圧弁・給気弁セット...機関車の元空気溜とブレーキ弁の間の配管途中に取り付けられる弁。減圧弁は機関車だけのブレーキを動作させる“単弁”に繋がり、給気弁は編成全体にブレーキを動作させる時の“自弁”に繋がる。  
今回製品化されたパーツは、8620や9600、D50などに見られた古いタイプである。通常の取付位置はキャブ内部なので、キャブインテリアまで作り込む細密指向のパーツといえる。1組入り600円。  
●0438 煙突 D51用...珊瑚模型店製のD51に合わせて製作されたパーツ。スカート部分まで一体鋳造の真鍮ロストで、煙突中央に2mm径の穴が開けられており、M2ビスで機関車本体に取付ける。600円。



い、流線型先頭車 (1・10号車) は50000形VSEに似た形状となった。6号車、7号車は貫通型の平面的な先頭形状を持つ。地下線での走行に対応して流線型先頭車にも非常時脱出用の貫通扉を設置。2015年まで断続的に増備され、6輛編成5本と4輛編成3本の陣容となった。

“メトロさがみ” “メトロはこね” “メトロホームウェイ” といった地下鉄直通特急のほか、新宿駅発着の小田急線内の定期列車、臨時列車、御殿場線乗り入れ列車にも使用されている。

製品は2014年に発売されたもの (2014年12月号で紹介) の改良再生産。車端部の床下機器を追加。6号車・7号車のライト明るさ向上が図られており、車番も前回製品から変更されている。



増結用マイクロカプラー、貫通扉を開いた状態のパーツが付属

連続窓越しにアクセントとなっている。  
オプションとしてマイクロカプラー連立 (灰) と幅狭室内灯が取付可能。既発売の小田急車や、乗り入れ先の様々な車輦と共演させて楽しみたい。(竹内)



増結4輛セット

## 三角形のビル

**N** 1:150  
レイアウト用品  
コスミック製品  
06-6396-8011  
<http://www.eonet.ne.jp/~cosmic-rm/>

### 製品一覧 (全て税別)

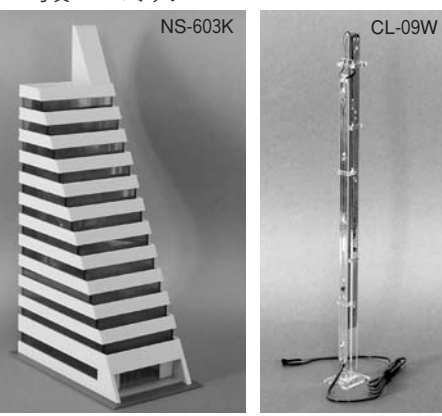
NS-603K 三角形のビル .....9,800円  
CL-09W 専用照明ユニット .....5,000円

コスミックのNゲージストラクチャー。今回発売されたのは、側面が直角三角形となったお洒落なビル。ベイエリアなど街並みのランドマークとして好適である。

製品は同社得意のレーザーカットによるキット。アイボリー・ライトグレー・ダークグレー・クリアブルー・クリアと5色のアクリル板を使い分けており、無塗装で組み上げることが可能である。ベ

一部分の寸法は100×170mm、最大高は313mm。別売で白色チップLEDを用いた専用照明ユニットも用意されており、照明を組み込んで楽しみたい。

写真: コスミック (平野)







## JR北海道 キハ261系1000番代 1・2次車 新塗装

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品 15,800円(税別)  
トミックス製品  
03-3695-3161  
http://www.tomytec.co.jp/

トミックスの261系1000番代新塗装に1・2次車が加わった。

261系1000番代は2006年にとかち用キハ183系を置替える目的で登場した。車体は789系を基本とし、足回りは基本番代を基に台車やエンジンを改良して仕様が変わったため、基本番代とは混結できない。また現在は使用停止となったが、空気バネによる車体傾斜システムを搭載し、振り子式車輪よりも低コストで曲線通過速度の向上を実現した。

キハ183系の置替え用として現在も増備が続いて

いるが、2015年からは外装デザインを変更。先頭部と扉付近は北海道の雪を示す白、帯にはラベンダーやライラックの紫、前面扉は菜の花をイメージした黄色を用いた明るい配色として、前面表示器のLED式への変更も順次行われた。現在、スーパーとかち、スーパー北斗やホームライナー等に用いられている。

トミックスではキハ261系1000番代を度々製品化しているが、今回製品は2017年4月号で紹介した新塗装タイプのバリエーション展開となる。

スーパーとかちの基本組成となるキハ261-1100+



キハ260-1100+キハ260-1200+キハ261-1200の中間にキハ260-1300を増結した5輛セットで、座席はグリーン車のキハ261が紺色、自由席車キハ261が青色、残りはアップグレード座席の指定席でエンジ色の成型となる。また今回は1・2次車ということでキハ260-1300・1200は車端部に小窓あり、屋根上のビードはクーラー脇に太いリップのある形態としている。

車番は転写シートによる選択式で、スノープロウ、スーパー北斗・臨時のトレインマークが付属。単品販売となるキハ260-1300を組み合わせて最大10輛編成までの増結が再現できる。旧塗装と組み合わせで塗色過渡期を演出するなど、自由に組成を替えて楽しみたい。(山田)



キハ261の車内は自由席を青色成型で再現



## 阪急 8000/8300系 1次車

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品  
グリーンマックス製品  
03-5943-1715  
http://www.greenmax.co.jp/

■製品一覧(全て税別)  
基本4輛編成セット(動力付き)……………21,700円  
増結用中間車4輛セット(動力無し)……………15,300円  
増結用先頭車2輛セット(動力無し)……………12,600円

グリーンマックスの阪急8000/8300系1次車が、新動力搭載などリニューアルを受けて再生産された。

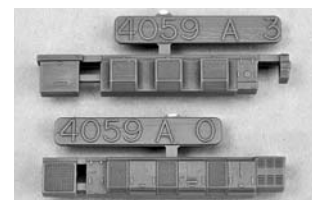
8000系は1988年に神宮線向けに、8300系は少し遅れて1989年に京都線向けに登場した。7000系を基に各部を改良しつつ長期に渡って増備されたが、その中でも1次車を始めた初期のものは、前面の輪郭が額縁形状になっているのが特徴である。

製品は近年の標準仕



様にあわせてフライホイール付コアレスモーター動力ユニットを基本セットの8550(8850)に搭載。前照燈・通過標識燈が電球色LED、尾燈が赤色で点燈する。

基本セットに収録のダミーカブラーは自連・密連・電連付き密連の選択式であり、編成中の各先



床下の制御装置は選択式。2種類が付属している

頭車にあわせて形態が選べる。先頭車運転台側同士の連結はシングルローパーにて行う。種別・行先・ドア用表記・車椅子マーク・弱冷房車・携帯電話電源オフ車両表記は付属ステッカー。車番・社紋・グループマークは付属マークから選択して好みの時代が再現可能。アンテナ・避雷器・ヒューズ箱・ベンチレータ

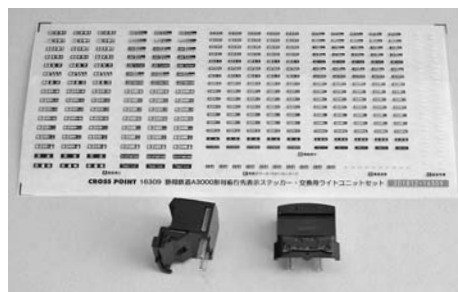
ーがユーザー取付である。なお、増結用先頭車セットの他編成と連結する側(8150・8450)のライトは点燈しない。オプションにはトミックス室内照明ユニットLC狭幅とTNカブラーがある。(山崎)

増結用先頭車2輛セット



トブランドで登場。1編成分のライトユニット2個とステッカーのセットである。

製品のライトユニットには行先と種別が印刷されているが、本製品は印刷無しで、付属ステッカーから好みの行先・種別を設定できる。通常の仕様に加えて、イベント時などに使用される季節のイラスト入りものも収録。前面のほか側面表示も含まれている。そのほか前面車番・乗務員室標記・車椅子/ベビーカーマークもあり、行先変更やドレスアップに好適である。(山崎)



## 静鉄A3000形対応行先表示ステッカー・交換用ライトユニットセット

**N**  
1:150  
パーツ 3,300円(税別)  
クロスポイント製品  
03-5943-1714  
http://www.gm-store.co.jp/

GM静鉄A3000形用行先表示パーツがクロスポイン



## 東急 6020系 大井町線

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品 34,200円(税別)  
グリーンマックス製品  
03-5943-1715  
http://www.greenmax.co.jp/

東急2020系に続いて大井町線向け6020系が登場。

東急は2002年より導入している5000系列に代わる新たな車輪として、田園都市線向けの2020系と大井町線向けの6020系を2018年3月より運行開始した。総合車両製作所の“sustina S24シリーズ”による設計で、JR東日本E235系を基に通勤近郊形車輪の仕様共通化を図っている。

デザインは沿線の商業施設などと統一感を持たせており、幕板から屋根にかけての白色、丸みを帯びた先頭部により柔らかさをイメージしている。ラインカラーの帯は5000系と同じく先頭部で立ち上がり高い位置に巻くもので、前面にも回りこむようになった。行先・種別表示器はフルカラーLED、前照燈・尾燈にもLEDを採用。機器構成を工夫して設計され、10・8・7・6・5輛編成でそれぞれ適切なMT比を構築できるようになっている。

大井町線向けの6020系は他社線へ直通する機器

を持たず、同線向けの情報装置を用いた駅誤通過防止装置、工事区間などにおいて臨時にATCコードを変更できる臨時速度制限機能をもつ。2018年3月改正では大井町線急行の7連化が行われており、それに合わせ7輛編成で登場した。

後に3号車をロングシートとクロスシートの転換が可能な車輪に差し替え、12月より座席指定サービス“Qシート”を導入している。抜かれた車輪はデジタルサイネージ増設など仕様を揃えううえで、2020系の増備編成へ組み込まれた。

製品は先々月号にて紹介した2020系に続くもので、編成輛数やラインカラーが異なる6020系を再現。車番は第1編成のもので、Qシート組み込み前の姿である。付属シールには優先席表示とデビュー記念ヘッドマークを収録。“7cars”ステッカーは1枚のみ貼り付けられた姿であり、付属シールにも収録しない。



用や急行用の各形式と合わせて走らせた。 “Qシート”組み込み仕様も期待したい。(山崎)



## JR東日本 E231系3000番代 川越・八高線

**N**  
1:150  
G=9.0  
塗装済完成品 14,000円(税別)  
トミックス製品  
03-3695-3161  
http://www.tomytec.co.jp/

E231系3000番代は、川越・八高線で使われていた205系3000番代を置替えるために中央・総武緩行線用の0番代を改造した車輪で、4輛編成化、床下機

器の更新やドア開閉ボタン設置等が行われている。

川越車両センターに所属し、2018年2月から運用を開始。八高線・川越線の八王子～川越間直通運用に用いられる。車体帯はオレンジとウグイスの八高線カラーに変更され、同時期に転属した209系3500番代など

と共に活躍している。

製品は川越・八高線へ転属した現在の姿をプロタイプに、モハ2輛の更新された床下機器を新規製作。現行の強化型スカートや側面グリーンガラス、改造で



更新された床下機器を再現

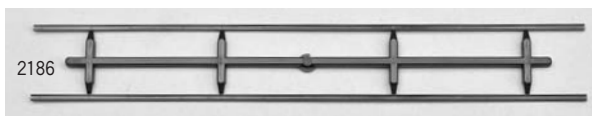
管が付属している。209系3500番代の製品化も予定されており、揃えて活躍させたい。(山田)

## プラ素材レール/パーツ各種

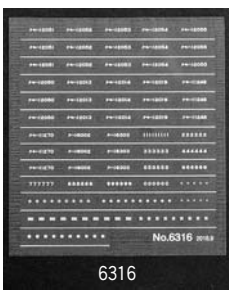
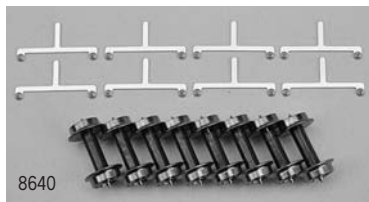
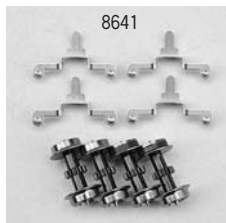
**N**  
1:150  
パーツ・レイアウト用品  
グリーンマックス製品  
03-5943-1715  
http://www.greenmax.co.jp/

■製品一覧(全て税別)  
2186 プラ素材レール(ブラウン・10本入り) ……800円  
6316 車輪マーク 旧型国電(国鉄クモハ11/12) 白色 ……900円  
8640 集電対応車輪(ピボット集電方式対応) 黒 ……1,600円  
8641 集電対応車輪(コアレス動力対応) 黒 ……1,100円

グリーンマックスの分売パーツとレイアウト小物。プラ素材レール



は茶色の成型色で、長さ約165mmのものを10本収録。車輪は、品番が5桁の完成品シリーズとコアレスモーター搭載動力ユニットに使用されている黒色のもので、補修や改造用として好適。8640は2輛分として車輪8軸と集電板8枚をセット。8641は動力車1輛分としてゴムタイヤ付/無しの歯車付き車輪を各2軸、集電板4枚を収録している。(山崎)



## 控車3種

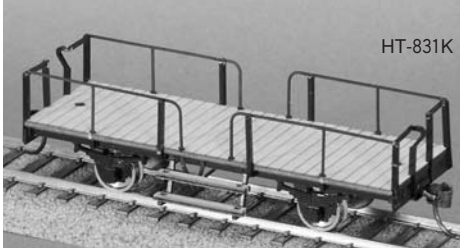
**No.16** キット  
コスミック製品  
1:80 06-6396-8011  
<http://www.eonet.ne.jp/~cosmic-rm/>

### 製品一覧 (全て税別)

|                     |        |
|---------------------|--------|
| HT-831K ヒ500形       | 3,200円 |
| HT-832K ヒ600形       | 3,500円 |
| HT-833K ヒ600形 お立ち台付 | 3,800円 |
| HT-834K 控車3種セット     | 9,800円 |

コスミックの16番貨車Fシリーズ新製品。

控車とは連絡船への積込みや構内入換作業において、船や建物内、急曲線などに機関車が直接入らずに済むよう中間に連結される事業用車である。また、操重車や長物車の突出部分に連結されたり、異なる連結器を持つ車輛同士のアダプターとして使われることもある。



ヒ500形は1954年に青函航路の連絡船積込用としてトム16000の側板を取り外して改造されたもので、函館・青森で使われた。一方のヒ600形は各地で使われる入換控車として無蓋車・有蓋車を種車に1954～77年に200輛以上が改造され、床上に詰所や監視台を設けたものや、軸受も種車の違いによりシュウ式、一段リンク、二段リンクと様々な形態が見られた。



写真：コスミック

製品はレーザーカットによるキットで、床板や小屋は木製、ディテール部分はペーパー、軸受やステップにアクリルと素材を柔軟に使い分けている。木部は質感を生かしてステイン仕上げにするのも良いだろう。車輪(φ10.5片絶ブレン軸)、カプラー(ケーデーNo.5)が別売。ヒ500は床上に手摺りのみ装備、ヒ600は詰所があるものと監視台を持つものの2種を発売。安価な3種セットも用意される。(平野)



## JR東日本 E751系 特急“つがる”

**N** 1:150 G=9.0  
塗装済完成品 16,800円(税別)  
マイクロース製品  
048-444-2944  
<http://www.microace-arii.co.jp/>

マイクロースのE751系が近年の姿を再現した改良品で登場。

E751系は“はつかり”で使われていた485系非リニューアル車



を置替えるため1999年に6輛編成3本が製造された。直前に開発されたE653系をベースとしているが、運用区間を考慮して交流専用となっている。青函トンネル対応の装備は準備工事となり、盛岡―青森間の“スーパーはつかり”に投入された。

2002年の東北新幹線八戸延伸開業により、八戸―青森・弘前間の特急“つがる”へと転用。2010

箱を残すも、2015年に廃車となった。

製品は近年の姿を再現した改良品である。これまでに“スーパーはつかり”、6連の“つがる”は出ていたが、4連仕様は初登場となる。強化改修されたスカート形状、前面の愛称表示には“TSUGARU”の文字が入り、中間連結面に転落防止幌が設けられている。

車番はA-101編成を印刷済。前照灯・尾灯・前面表示器がLEDで点灯する。動力はフライホイール付きユニットをモハE750に搭載。奥羽本線を走る様々な旅客車・貨物列車と競演させたい。(山崎)

## バスコレ新製品各種

**N** 1:150  
塗装済完成品  
トミーテック製品  
03-3695-3161  
<http://www.tomytec.co.jp/>

バスコレのセット各種。価格は全て税別。(山)  
●いわき号30周年記念3台セット…1988年の常磐道日立北IC～いわき中央IC開業に伴い、ジェイアールバス関東・常磐交通・東武鉄道は東京駅～平(現いわき)駅間に高速バス“いわき号”の共同運行を開始した。

製品は3社のバスを1台ずつ収録したもので、ジェイアールバス関東は運行開始当初の三菱ふそう初代エアロバス、新常磐交通と東武バスセントラルは現行車の日野セレガ、いすゞガーラである。

いずれも動力ユニットBM-03での走行化に対応する。3,600円。

●西鉄バス北九州 2台セットA…2018年のにしてつグループ110周年を記念し、西鉄バス北九州の八幡自動車営業所所属9227・9231号車がかつての路面電車をイメージしたラッピングとなり、5月から12月下旬まで運行された。



製品はその9227号車と、1992年の西鉄北九州本線縮小の際に導入された“電車代行カラー”の小倉自動車営業所所属9489号車をセット。いずれもBM-02Rでの走行化に対応する。2,400円。

●千葉交通 新旧カラー2台セット…現行&復刻塗装の2台セットの新作は千葉交通。2018年に創立110周年を記念して、2007年まで使用されていた銀ベースのデザインを新規導入の車輛3台に再現した。製品は復刻カラーの日野ブルーリボンH18-57号車と、現行カラーの日野ブルーリボンシティII 14-18号車を収録。日野ブルーリボンシティIIのみ、BM-01での動力化に対応する。2,400円。

## 昭和の駅前ターミナルシート

**N** 1:150  
レイアウト用品 各200円(税別)  
もけいや松原製品  
072-338-9991  
<http://www.mokei-ya.com>

### 製品一覧 (全て税別)

|                            |
|----------------------------|
| 22-561 横形待機バスつき仕様(周辺歩道あり)  |
| 22-562 横形バスターミナル仕様(周辺歩道あり) |
| 22-563 縦形バスターミナル仕様(周辺歩道あり) |

|                            |
|----------------------------|
| 22-564 横形待機バスつき仕様(周辺歩道なし)  |
| 22-565 横形待機バスつき仕様2(周辺歩道なし) |
| 22-566 横形バスターミナル仕様(周辺歩道なし) |
| 22-567 縦形バスターミナル仕様(周辺歩道なし) |

もけいや松原の貼るダケシリーズ。昭和40年代から平成初期まで見られた格子状の横断歩道を再現した“昭和の道路”シリーズで、駅前ターミナルを再現している。今後もバリエーションを展開予定。(山崎)



京葉線色 メルヘン顔

## JR東日本 205系 京葉線色/鶴見線色

**No.16** 塗装済完成品  
1:80 エンドウ製品  
G=16.5 042-544-8011  
<http://www.mr-endo.com>

### 製品一覧 (全て税別)

|                        |          |
|------------------------|----------|
| 京葉線色 メルヘン顔 基本6輛セット     | 318,000円 |
| 京葉線色 メルヘン顔 中間4輛セット     | 202,000円 |
| 鶴見線色1100番代 前面改造車 3輛セット | 164,000円 |

バリエーションが続くエンドウの205系。先月号で紹介したメルヘン顔に京葉線色が変わり、鶴見線用の1100番代も発売された。

1990年から京葉線・武蔵野線に新製投入された205系は、沿線の東京ディズニーランドを意識してブラックフェイスの緑が丸味を帯びたデザインに変更され“メルヘン顔”と呼ばれている。京葉線の205系は10輛編成で6M4Tの組成。後に量産先行



車や通常仕様の205系も転入したが、2010年からE233系5000番代への置替えが始まり、2011年に運行終了している。メルヘン顔の205系は武蔵野線に残るほか、一部は日光線・宇都宮線向け600番代へ改造されている。

製品は先月号で紹介した武蔵野線仕様が続くもので、基本6輛セット(クハ204+モハ204+モハ205+モハ204+モハ205+クハ205)と中間4輛セット(モハ204+モハ205+サハ205+サハ205)というセット構成。種別・行先は“快速 蘇我”が取付済である。

1100番代は、2004～05年にかけて鶴見線の103系



各線仕様で異なる椅子色を再現。扉窓の大きさも作り分けている

存在する。先頭車は中間車からの改造で、丸味を帯びた前面形状である。なお、T11編成のクハ205-1101は先頭化改造の試験的な施工例として2002年に改造されている。またクハ205は埼京線、モハ205・クモハ204は山手線から転入したため、客扉窓は前者が大型、後者が小型と編成内で異なっている。2009年にはパンタグラフがシングルアームのPS33形に交換された。

製品はパンタグラフがPS33となった現在の姿がプロトタイプ。客扉窓の違いも的確に再現されている。種別・行先は“扇町”が取付済。こちらは少量生産で、天賞堂およびモデルプラザ・エンドウのみでの取扱いとなる。

両バージョンともに動力はキャノンEN-22モーター+WB26mmMPギヤ φ10.5プレート車輪をモハ205に搭載。ユーザー取付のワイパーが付属する。車番は付属のレタシールから選んで転写する。(竹内)



鶴見線色1100番代



4輛編成セット

## JR九州 BEC819系 (DENCHA)

**N** 1:150 G=9.0  
塗装済完成品  
グリーンマックス製品  
03-5943-1715  
<http://www.greenmax.co.jp/>

### 製品一覧 (全て税別)

|               |         |
|---------------|---------|
| 2輛編成セット(動力付き) | 16,900円 |
| 4輛編成セット(動力付き) | 28,600円 |

交流区間で活躍する初の蓄電池車、DENCHAことBEC819系がGMから登場。

●実車について…2013年に試験された817系蓄電池設置改造車のデータを基に開発され、2016年に登場したBEC819系は、比較的短い非電化区間を走行する気動車の置替えを目的とした蓄電池車である。

自動車にも用いられるマンガン酸リチウムを用いたリチウムイオン電池をクハBEC818形の床下に設置。青い機器箱が特徴的であ

る。車体は817系を基本としたアルミダブルスキン構造で、白塗装をベースに扉や側面のロゴ類を青色としている。電化区間ではパンタグラフを上げ通常の電車として走行しつつ、行情中や停車中には架線から、減速時には回生ブレーキから蓄電池に充電を行い、貯めた電力を使って非電化区間を走行する。非電化区間には狭小断面のトンネルもあるため、パンタ部分は低屋根となっている。また前照灯のLED化もJR九州初となる。

現在は7編成が活躍し、筑豊本線折尾―若松間10.8kmの非電化区間で運用され気動車を淘汰。電化区間の桂川―折尾間および篠栗線にも乗り入れ、博多駅まで運用される。また今後は香椎線での運用も予定されている。

●製品の概要…動力付き2輛セット、動力付き/なしの2編成を収めた4輛セット

現。中間連結部の貫通扉ガラスにも模様が入る。M車はクモハBEC819形で、クハBEC818形の床下には青色塗装の蓄電池カバーを取付けている。側面行先表示と優先席表示を収録したステッカー、併結用ドローバーが付属。

2輛セットは第3編成で行先表示は若松線。4輛セットは第1編成がトローラー。第4編成がM付きで行先表示は普通・直方行となる。新たな鉄道運用の形態として登場したBEC819系。実車は817系とも併結運用されており、既発売の他形式との組み合わせも楽しみたい。(山田)



クハ床下の青い蓄電池箱を再現。貫通扉のガラスにも模様が入る



2輛編成セット



28-3021は売店・通路兼喫煙スペースとして使用された。いさり火列車以外の臨時運用にも使用されたが、老朽化から2002年8月にさ

## JR西日本 キハ58系 いさり火

N  
1:150  
G=9.0

塗装済完成品 16,600円(税別)  
トミックス製品  
03-3695-3161  
<http://www.tomytec.co.jp/>

いさり火列車として活躍したキハ58系のセット。  
山陰本線城崎—浜坂間の景観を観光資源として活用するため、イカ等を光で誘って釣るいさり火漁にちなみキハ58系3輛(キハ58-7202+キハ28-3021+キハ58-7208)を“いさり火列車”に改造。夏の夜、イカ釣り船のいさり火を車内から楽しむという企画列車として2000年7月から豊岡・城崎

一浜坂間で運用された。  
外観は急行色の上に海をイメージしたイラストを追加、車内燈を消してブラックライトを点燈させるとキハ58-7202には星空、キハ58-7208には海中のイラストが浮かび上がる幻想的なデザインを演出した。また非リクライニングシートの2号車キハ



いさり火のヘッドマークが付属

よなら運転を行い、2003年1月には廃車となった。  
製品はこのいさり火列車を限定品3輛セットとして発売。急行色に波模様の派手な外観を再現した。キハ58の水タンクは角型、ベンチレーターはハーフガーラント型の西日本仕様を再現。車内もキハ58は簡易リクライニングシート、キハ28はボックスシートが表現されている。

車番は印刷済で、ヘッドマークや前面表示(臨時・団体・快速・普通)のほか、別付けのアンテナ、排障器、幌枠が付属する。夏の夜を風流に楽しませてくれた列車の涼しげな絵柄を楽しみたい。(山田)

## 北越急行 HK100形

N  
1:150  
G=9.0

ディスプレイモデル  
トミーテック製品  
03-3695-3161  
<http://www.tomytec.co.jp/>

### ■製品一覧(全て税別)

旧塗装 2輛セット .....3,000円  
ほしぞら・イベント対応車 2輛セット .....3,400円

鉄コレの北越急行HK100形に新バリエーション。  
●実車について…HK100形は、ほくほく線開業に合わせ1997年から営業運転を開始した。片開き2扉・20m車体の一般車で、開業時に導入された9輛と増備車のうち1輛は両運転台であった。最大3輛まで連結可能で、通常は単行または2輛でワンマン運転を行う。最高速度160km/hの特急“はくたか”の間を縫って運転するため、最高速度は110km/hで加速性能も高く設定されている。2010年から全般検査に合わせ更新工事を行い、あわせて塗装が変更されている。

HK100-8・9はイベント対応車として転換クロスシートを装備して導入された。2002年にはHK100-9がプラネタリウム電車で改造され“ほしぞら”と名付けられた。この車輛では、トンネル走行中に消燈し天井の星座をブラックライトで浮かび上がらせていた。同じくイベント対応車のHK100-8も同じ塗装に変更している。

2003年には片運転台で転換クロスシート式のHK100-101・102“ゆめぞら”が投入された。この車輛ではDVDとプロジェクターを用いてバリエー



ほしぞら・イベント対応車



旧塗装

ションに富んだプログラムを上映可能にしている。  
●製品の概要…今回の2セットはいずれも過去の姿である。一般車は更新前の旧塗装で、車番はHK100-2・4となっている。前面表示は“ワンマン普通”、側面表示は“越後湯沢”である。

もう1つは“ほしぞら”だった頃のHK100-9と、イベント対応車HK100-8のセットである。こちらの前面表示は“ワンマン 快速”、側面表示は“直江津”となる。

種別先行の変更用シール、2輛連結用のアーノルドカバーのほか、ユーザー取付の無線アンテナ

と動力化用台車枠が付属。動力ユニットはTM-14、走行用パーツセットはTT-04Rが対応し、パンタグラフはトミックスPT4811N<0258>に交換可能である。(山崎)

## 第19回国際鉄道模型コンベンション 公式記録集

書籍 1,389円(税別)

発行：国際鉄道模型コンベンション実行委員会  
03-3450-3499

<http://kokusaitetsudoumokei-convention.jp/>

2018年8月に開催された第19回国際鉄道模型コンベンション(JAM)の公式記録集。モデラー出展作品と出展企業の紹介のほか、ギネス世界記録に挑戦するスピードコンテストなどを含む鉄道模型競技会の様子を伝えている。

各ブースの写真が豊富に掲載され、会場でじっくり見られなかった作品など改めて見直せるのが嬉しい。テーマ“北海道”に沿った特集記事、鉄道模型クリニックで行われた講演のダイジェストなど、読み物としても充実した内容となっている。A4変形国際版132ページ。

(竹内)



## 昭和の対面通行道路 交差点

N  
1:150

レイアウト用品 200円(税別)  
もけいや松原製品  
072-338-9991  
<http://www.mokeyi-ya.com>

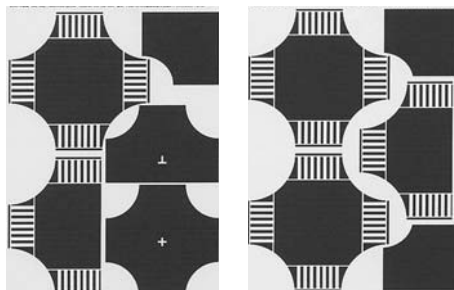
### ■製品一覧(全て税別)

22-631 交差点とT字路  
22-632 横断歩道あり交差点

もけいや松原の貼るダケシリーズ。昭和の対面通行道路に対応した交差点2種がラインナップ。それぞれ複数種の路面が収録されている。

例によって退色に強く水分や油分で滲まない顔

料系インクで印刷したもの。印刷に沿って切り抜き、両面テープなどでレイアウトボードに貼り付けて使用する。(竹内)



22-631

22-632